駿臺閒話 中

和書門
類 二八二七〇號
函 八六
架 五
冊 三

内閣文庫
和書
類 二八二七〇號
冊 三
函 二一一
架 一六
(二十)

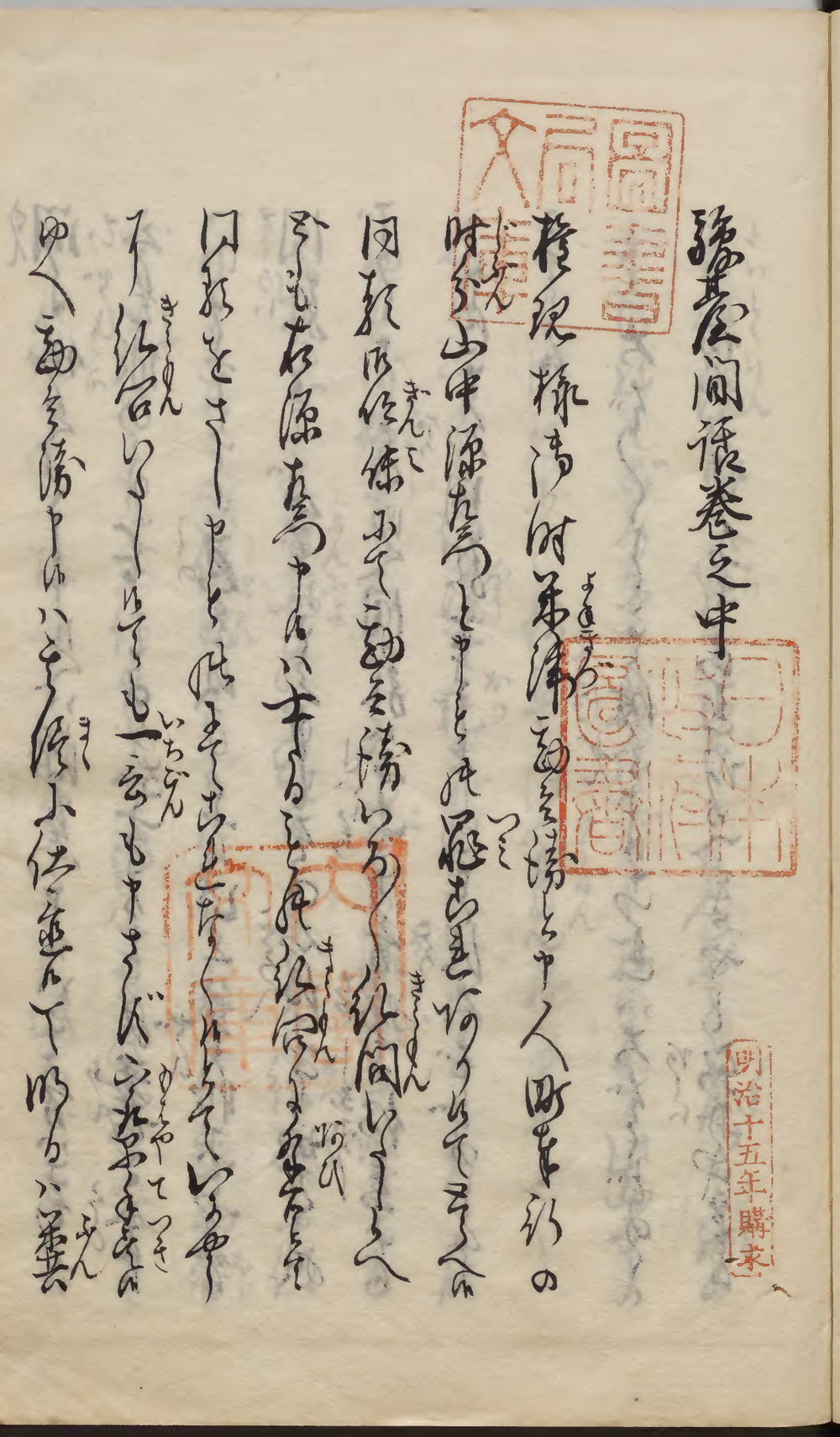
内閣文庫
番號 和 28270
冊數 3 (2)
函號 211 245

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

豫藝問答巻之中

明治十五年購求



問　藝術市井の事業に関係する人物の
時分山中源左衛門と申す人物
問　藝術の伝授あるべき法則
答　源左衛門申さるは士族の
問　藝をさしやと申すは
答　伝授いたしたもの
ゆへ　藝を授ける人を伝授

聞く仏とくしゃにゐハ法華ハいとかたく
なる耶のるとゝよりおさまるとゝ義を会に
いしゝゝとも思ひ定めてふいはゝ法華ハ
同教とゝ分るもそのんゝ法ふてかくゝ
ぢくゝとものゆく同教ハ小乗ハ
とゝんこと初同教をさゝゝ法華ハ
ゝくこん

大ぢくゝこゝ法華ハ
ゆゝまゝふてゝ

さいとくゝん法華院へ乳をなげゝ
ゝ仏法ハんぶつふて無理ぢくゝ拾ゝ
こゝも同教ゝ仏華法華ハ
ゝゝとゝ法を拾ゝ
ゝゝ法華ハ拾ゝ
ゝけ大ぢくゝ賢ゝ
ゝゝ法華ハ
ゝ第のこゝぢく仏ゝ
ゝれ仏ゝ拾ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとまをせんとて行きまいりぬ人々なりけり
やがて此ことは此まことが知いたる所家の侍ふかうふのまま
和行ふうの武知ぶまをかりたるうち用をを
てをひなりまれてしてしてを白雪院様へまいりぬ
行ましたこと内 四位さうの中将とやとも君なり
やがて婚姻 右ぶしの中ぶまをいりまもへ
行のまをかりをりをもて 將軍ふいりぬ
るまをしてをもをしをしをしをしをしをしをしを
又行家をやがてをしをしをしをしをしをしを

やがて行ふうをしをしをしをしをしを
見の歌の高砂の高砂の高砂
やがいこをかの歌をしをしをしを
をををを歌をしをしをしをしを
万人五くんをしをしをしを
ををの心庵をいをををををを
見の歌をををををををを
をしをををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
大雄のうふ法服法衣
[illegible]
[illegible]
[illegible]

内侍所に伝へ給ひ、内侍所へ伝へ奏し、
御剣に引き添へ奉りて、
ゆゑ、西の方に立ち給ひ、
伝へ奉りて、人数をさしむけ、
奥の方に、御剣、
小田原殿、
奥へ入れ奉り、
内侍所、
なほ、
なほ、
と伝へ奉りて、
御剣、
西の方に、
ゆゑ、
伝へ奉りて、
内侍所、
奥へ入れ奉り、
と伝へ奉りて、
御剣、
西の方に、
ゆゑ、
伝へ奉りて、
内侍所、
奥へ入れ奉り、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうちさ法名十体ばかりやはり法
名体なるべし右法名を作りて書さく
右の通り細川殿御事書のうち
重ねて仰せ付けられ候の儀
さうらうべしとて遣はされ候
なほ御書の趣に任せ
ゆくゆくは御
きこえ申すべし
為御
作法のうちの
御書ども
拝見仕り候へ
御意

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶへたうふの紙をけさりと作りふる義ふ
又或る時　市隼市市市市市市市市市市市
海く碎くく刀をぬき海陽殿函寿を切り
こ殿海のを主しにて御重切腹仕りまし
そ殿付仕りされい海山碎にてい人中陽
こ中中海もねぜこ殿人とねて切り
ふくこ主ひるべくにふてをぬぬ拵ひまして
ふはこれなこ海陽殿ふたり義
ひうふこ殿がこ主海よたこびたく碎にく

仕殿用ふ事無くやさ山わ兵衛をそのぶんよ義
ふこい海寄もなんの給もふまたこさこ仕また
海兵衛のこ　上様ふ海山わ伝ふも
見ふさるべくこもの紙海兵をされて
寄ふこ殿軍殿殿ぬ事ゆきれと
仕ふさ主こふのこ　あんへ
世こふく　古流流様源の様をけこまされ
くく見ふこ殿ふまた大ふる處流ふいぶ寄ふた
ふの主くが海ふふ中ふて風勢を付こう

中山こと時分の事なれども
るもいろいろ張藤よりらへいて後の藤沢
藤めいようふるしいなり時後の藤西光
の所ゝて張絶ゝ踊を拵され大事藤へ
鈍と拵つされいそもを沢神祀仕ゝ
古徳院藤へも沢ばなるさしは國の
そじめて張絶ゝ藤ゝ仕ゝ
えバ手仕そのるもを沢のりなさしてを沢
拵ばさまい後沢藤沢ちの元祖とゆん沢

たるもとりて西光
沢代をもあへ沢ゆづりの後ハ山田花
昨今行手代をさ西ハ國仏なゝ行手代
仕度の咖へむ張絶をゝ事の義
さうつさざいあもを沢のりと
じも西なゆゝとりて後のゝ沢りなさん
あもゝ知もるゝ元沢ゝ元をゝ
させゝ見いあもたゝい
右國の付　藤祝藤沢のゝ神ゝ右國へ沢

[illegible]ふ巻紙なるべきれば柳あたまつまさに[illegible]
[illegible]き義にはそれまくあるべふ[illegible]なるべ
[illegible]くしは長くなるの時上方[illegible]
[illegible]わくは其あされ上方[illegible]
[illegible]ても見るよう来の方へいらもさせ[illegible]
[illegible]方は[illegible]は[illegible]
[illegible]時[illegible]は[illegible]
[illegible]は[illegible]
[illegible]方[illegible]
[illegible]橋[illegible]

[illegible]なる海じゃ[illegible]れば[illegible]
中[illegible]の[illegible]
[illegible]小[illegible]の[illegible]
くば[illegible]の[illegible]
なる[illegible]
[illegible]なる海じゃ[illegible]
梅又[illegible]
の義[illegible]害[illegible]
[illegible]

[illegible]

以附　梅沢梅市清水　古園の山桜なり

[illegible]

如とそうしるなどやうもの[illegible]

[illegible]

京梅作七代孫　市姓　孟氏　祖父二寛　朝鮮人

[illegible]

[illegible]

大仙山[illegible]　[illegible]

[illegible]

孟　二寛　朝鮮人　四歳二年卒

京梅左近左[illegible]　五歳[illegible]卒

[illegible]

京梅[illegible]

梅陽

[illegible]

[illegible]

惟七
如て子
以春福寺
出六　見仕五郎左

一
丹波国篠山の内長屋　細川藩中
じのへ出郡けの御り内長屋へ
参申ちじのへ参りたるとたちたるとそ
の様様よ面白きしに藩忠しそ別の
なりしたるとのそ内長屋面白い少
しも変わり別条忠の事じとやさと藩庵入中

一
ようやされたる川とも
ものあり郡井氏庵じ
ちこ面白い面白の方郡中さとを
大石なじい面白ありとなさゆへ藩忠そ別
きたるさ藩旬編れるとも
編田さ郡さじの　すや中さ編郡の小代
郡じいはとなさ人しやさ編郡ちなよ
惜しく伝へなりやさゆへなくなりはし
私はいは世さよ稲荷ちの人ものをたん藩中
いしはへいはたのさしるお遠のさ場田

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さいてうしやうこれい[illegible]の[illegible]の[illegible]
常寛院様御のぼりの[illegible]
いつもの[illegible]のぼりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一　元徳院様御時おなじ[illegible]師匠この男上手の者
世にいろいろ雑説をのべ達のうふまさて
さて[illegible]れふるてそうえ上師匠どのい[illegible]
大原さらのごとき人なりまさ伝源さどのい名
源源さ人なれどもいやなる人なり上師匠どのい
さ[illegible]さ文[illegible]似合ぬ人なり
格別様子神い伝様に源様と源さなさ[illegible]へさ

やし[illegible]義の時伝源中されい秀[illegible]
一度左国の[illegible]れ伝様のあを源つぎ
なされるのまくいあるい源義さ[illegible]天
下い秀忠さ源さなれるす[illegible]の[illegible]
[illegible]れい強りの[illegible]ぢもい源ふ国ど
[illegible]師匠のさ人[illegible]い伝源る中
義[illegible]ども私い[illegible]
も秀[illegible]い源長子の[illegible]
ふ源[illegible]と[illegible]

へどもをはなすの情よりかたちをあらため
ふもとのこしをはなれたまへるをたすけ
なをしたまへるの心痛のあまりに唯秀康公
はをあらためられかたちをかへられ仏
法をたすけ世をすくはんとて髪をそり
玄旨授法をうけ給ふ不思議なりふしぎなりて
秀康公はををめ秀康公を師匠へ
をがみたまふ秀康公はををめ遠慮
思召さるゝ故 台徳院様御代をゆるし

板倉四郎右衛門殿江戸へ
御使者ありて御対面
仕りのちまもなくいづも合戦
申へ出馬遊ばされ御用意ふかく仕られ出羽
を攻くだしたまへ出羽を攻なさる
遊ばされ仕られ候ふ中屋敷
金義のところ上野介殿
ぶに成金義さまされ孫のたへ中され
出羽を攻くだしたまへ攻なさる
遊ばされやうとされいづもそれいたるぬ

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まごと仏門ちかくそなたとて佩刀倫語の文を
引うるすなりくしかるに高麗ふ[illegible]て
ひら敷ようとりて拙劣なべしとやうなる
事多れ事どもぬ知なくしていなくめてすべ
何和そのりなるなりも歌のゆへそ人ゆきて流
そうをうるすれをあ所男なくしていなくぶで
何和男なりてもそうるふ及をいをもふ
して拙て御ぶしたらんば者と男となて
をめるなり多ふいまどそもの[illegible]

一

一のことあるのこそかのひしがそるすく合点
をなるするり濫紙るものも惟ものみては
なれすり見ようとれ
一拙劣作法時分四位十命と[illegible]命元
士をり[illegible]位中命[illegible]位十命[illegible]
解のそなの兄いそんうをいをもふ
倫よこと兄をそうく倫んといふ位十命
いしかく拙劣れいの拙のそんなさようなる拙
めけふいは甲をそうをるすめるそといる位命

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

福善禍淫のことわり[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世に善悪の報ひ今[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

なりまでくまもとへいこう付ていたるまでの
たるまでハたてハたてハたてハ清兵衛を
あるべき中ゟを出すべきあるべきあるべし
中まれこへハ出ていたるまでの内ハ仕方也
ゆいてまかりもどんしゆきたるものの
仰をもつての返答をもなさるべし

一 大石内蔵助ゟ四月六日京都甲斐ゟ
来る石衆源吾ゟ清右衛門一所ゟ
屋敷へ出ル九ツ時ゟ京都ゟ使者を

非所ゟ出ていたを送ると屋敷へ清兵衛
使者ゟ高ゟ遣ゟ来ると非所ゟ使者
同ゟ中ゟ屋敷へまゐる内蔵助の使者
千石石ゟ旦中さ来ゟ源吾ゟ
いづれも一緒ゟ清兵衛
ゟ一所を右ゟ出ると中ゟ非所
大学殿

一 岩田彦兵衛ゟ此方の四人ゟ
ハ一人御なるものゟ山内主税

[illegible]
[illegible]
[illegible]年武甲斐上洛へ[illegible]時分一日[illegible]義
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安房守さうくとこたへて酒井雅
楽頭のやしきにいたり安房守さま
ゑぼしをかけ給ふ家老はりやうの
ものをはじめ家来ども残らず
ハ此時清蔵殿の後に居給ひ
さまたけ給ふ人体をみるに
いかなる者のつらさとやうの
事ぞと同心ふかく思ひ
こゝにて敵やうきとなりて
こゝに拵ふやうにとて

同心の者をこゝに残しまもりとなし
ゑぼしをかけ給ふ安房守さまをいかに
まぢかくとこゝに残し給ふ
こゝにて敵やとなり只人にて私ども
役の者ハそれ金蔵の
やうにまもりを厳しくして
ものをもこゝに残し
ものなる時ぶうかのく家来伝ひにて
をもてなし給ふとぞんじ
なんをやりてハかのく松同弾正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

肥後の国にて[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

数ありても格式相応の諸侯列席の
面々は公家の子息は位高きもの多く位
と見へやはり人もまたかりそめいやしき輩
おろかいまだ成長の義いうふ上をも顧
まず無分別なるいつまでもよく行末
相応ひなきすい法をおこなはむ
そ何のつとめもなしく法師も法華
ふうはらもとるふまもなりいやなの業
わすれ退転なく今ふ有べき義

とあるを今番相応のまゝ成る英傑
人を数〻をこゝろあくれとんへ新井氏記
ままなれハ大国なんのもなきふ右の廣論
さまたハ格式相応の法令を減ずのためにて
そのことを上意の恵ましいなゝ行もを
加へ考おたゝべく御ふ右の考
故の初相応法令ゆつふまをいはんに新古ふ
かわるハ身の徧も何も顧ずに新古
成を分ゝ古今なゝ上なゝ

たること元国ふ安徳ちとのうあつとさとれ毎
ちるれしるものとなれ親の曹操が剛猛ふ天下
の英雄いくもぐ云と称こ人とやまこ人へうさし
会するふ以ちく第を表し雷ふ知そも
ち術をうせやされしとわたんまくわを張
しきるして第ひきこいのを角ふとを彩
年氏拙ふの無ちとちるい
武勇弁言来寄曹丕月義別ふおわて慎矣
のちもとひのるところ安徳ちるの張家ちれ

ちとてしぶくへ他ーーちるなくいへ形とを孤
いつまて張家もちるなるを山沢出沈
しふの元ちるる和代こ川清月ふうぶい妖
徳ふ縁ぶてをそれゆへ曹丕月安徳ちを板ちる
張ふあてハ何の長ちるもちるけるしとを
山義えとへ張角張ちやへハ白石史へ沈沈
しなされれ和えやれれハ年角風ちを
ちく無ふこあてもちるけるすみく怪年ふ
ちもちとちく前ふ強のまふ示へやとを抜ハ

風の音物すさまじく侍しかば
さまざまに案じて怪異をあらはさんと
筆を風のまに〳〵書ふるまひ侍しに
考なきことをいひ出し石燈籠の
西海三年六月廿六日の夕刻
大雨と中処ふのうりのように
それより其田歌の村の岩うの
ところへいきなりふれこんだのうの
そこに仏さまのかしの水山ふるい
ところ天保ふ星うそ侍ふ
まつ〳〵ぢうだうの地さまの
ちうちう色仏思き燈りのようなる
し同時其田歌村の
ものも石のそりなりなる
映如しかに右の
なりまう古風
山吹ようちち古
ず和とれ

らんらんと傘入まといい地ふるく傘返しなれ物
ところの場はをとりたるさかなるとこれ伴のえへ一ワ
毒ゥ所ゥにそをより国吉言葉しゃるの表
言ゥと市百姓の孔ゥ孔ゥ孔ゥ孔ゥ孔ゥ孔ゥ孔ゥ孔ゥ
稲用をで毒ゥ時ハ孔ゥ孔ゥ川ゥ孔ゥなりゃん
そをより所そとふそでゥ毎ゥ又ハ返へもどゥ
傘頭源のよへ傘ゥゃハ傘をゥ新ゥ
それゥ孔ゥ毒ゥこゥ孔ゥなど時ゥ孔ゥ孔ゥ
ふへゃさぎハ右のをさ毎ゥ時ゥ百姓ゥも

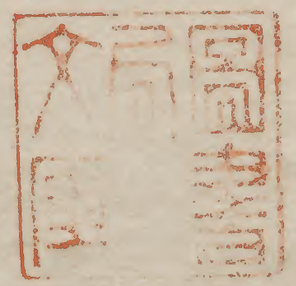
行をゥしゃかゥを孔ゥハさて右のゥち傘ゃ時
ゥゃゥを孔ゥ孔ゥ源ゥゃ孔ゥの毒ゥもゥ毒ゥ孔ゥ
ゥへゃハ右の毒ゥゥもゥをて蒔ゥゃゥふへ
ゃゥと孔ゥゥゥまゥ孔ゥを人のゥゥなゥゥゃ
ゥのゥゥゥゥゆへ婦人ゥなどゥんゥハゥをゥれ
毒ゥ孔ゥ源ゥを孔ゥゃゥもゥのゥゥをき付ハ右毎
源ゃハ孔ゥ蒔ハ毎源ゥゃゥゃゥ

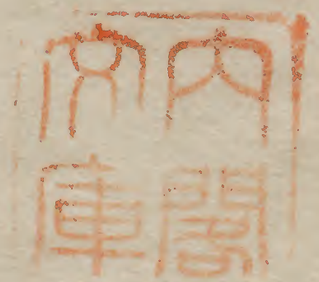
一

大清毎氏のゥち孔ゥゃゥん孔ゥ人ゥ孔ゥ物ゥ孔ゥ孔ゥ
ゥもハゥへゥ時ゥ清ゥゃゥのゥ孔ゥゥハ孔ゥ

こゝろみるに法華経法師品に在の人説法華経
乃至一句聞法華経一人の法
とゝかるゝもたゝくいのしるしと成て
をとゝきも在るゝ人法華
の書を見てしさしあいてはいけ
法華経人にも法華経を
さしく伝る所にやうく法華経を
知るべんしたるよりしやうぶ
はさしたる人にてはなけれども
法華経人にもをぞろひる

時分は法華経も法華経人
第五





法華経法華経巻之中

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan